



ふれあい読書

学校では、「保護者や地域の方、職員による読み聞かせや本の紹介を通して、生徒が読書に親しむ態度を育てる」ことをねらいに毎月1回「ふれあい読書の日」を設けています。7月10日は、1年生に儀間智江さん（本校事務）、2年生に山口徹さん（観光協会）、3年生に譜久村有珠さん（教育委員会）をお迎えして、読み聞かせやブックトークという形でご参加いただきました。終了後に儀間さんは、「大変緊張しました。本にふれる（本を好きになる）きっかけとして本を紹介しましたが、気にしてくれたらいいなと思いました。」山口さんは、「初めての読み聞かせの経験でした。自分自身とてもいい経験になりました。真剣な眼差しがとても素敵でした。」譜久村さんは、「ドラえもんという共通の話題で一緒に楽しめたので良かった。」と感想を述べてくれました。

現在の教育課題として、子どもの学力や体力などに続いて読書活動が挙がり、子ども達の読解力の低下傾向の中、特に中学生・高校生で1ヶ月に1冊も本を読まない生徒が多くなっているようです。朝の学活の時間に読み聞かせや本の紹介などは、子どもを読書に誘う有効な手立てとして多くの学校でも実践されています。今後も保護者や地域の方々、学校が連携・協働しながら「どのようにしたら読書を楽しめるようになるか」工夫していきたいと思ひます。



サイバー犯罪防止教室

7月14日（月）、スマートフォンアドバイザーのモバイルプリンス（島袋コウ）さんをお招きして、全校生徒を対象に「スマホ・SNSを賢く使う」と題して講話を開催しました。今や生活になくてはならない便利なスマホ、インターネットとうまく付き合っていくためにそのリスクやトラブルに巻き込まれないための使い方とそのための知識を身につけることの重要性について、時間が足りないくらいたくさんの事を教えていただきました。特に覚えて欲しい言葉として、「ターゲティング広告」「アテンションエコノミー」「FOMO」「ドゥームスクローリング」「グリーミング」など聞き慣れない言葉をわかりやすく解説するモバイルプリンスさんの一言一言にうなずきながら真剣な眼差しで聴く生徒の皆さんの姿がありました。それぞれの言葉の意味を理解することによって、「なぜリスクやトラブルに巻き込まれるのか、賢く使っていくための知識が絶対に大切である」ということを学べたと思います。そして最後に「リスク・トラブルは自己肯定感の低さに入り込んでくる。自分の良いところを見つけ、自信を持つこと、自己肯定感がバリアになる」とメツツセージがありました。生徒、先生方にとっても多くの知識が得られた有意義な時間でした。

